

令和6年度第1回兵庫県立図書館協議会 会議録

1 日時及び場所

令和6年11月14日（木） 13:00～15:00

2 出席者

協議会委員 太田委員 角本委員 川石委員 木村委員 坂下委員
津谷委員 中山委員 西海委員 藤井委員 三浦委員 森委員

教委事務局 社会教育課 谷本指導主事

県立図書館 野村館長 小藤次長
櫻井館長補佐兼総務課長 簗本利用サービス課長 前川ふるさと・資料課長

3 議事

(1) 県立図書館運営状況について

次長より、「県立図書館の運営状況」（資料1）、館長補佐より「中期運営方針の自己評価（令和5年度）」（資料2）に基づいて説明。

（委員） レファレンスの充実について、利用者の満足度向上を目指すところがあるが、具体的にどのように満足度を上げていこうと考えられているか教えていただきたい。

また、魅力ある講座の実施について、講師選定や講師派遣の事業をされているのか。されているのなら、どのような方がどのように対応しているのか教えていただきたい。

（図書館） レファレンスの満足度については、利用者のニーズや種類が違うため数値化するのは難しいが、利用者の立場に寄り添い対応するように心がけている。

講師派遣について、教員出身の指導主事が教員のネットワークを使ったり、他の施設で講師をされている方に講師依頼をしている。

（委員） 大々的に図書館が県民に対して講師を紹介するという事業ではないのか。

（図書館） 講師を紹介するという事業は行っておらず、他の図書館から講師を探していると相談を受けることがあれば、ご紹介できる分野でご紹介をしている。

（委員） 講師派遣のサービスを事業として行っているのではないのか。

（図書館） そのような事業ではないので、講師派遣は行っていない。

（委員） いろいろな事業所が講座を展開されていて、それぞれ講師を探すのに苦労していると思う。統括されている講座情報がどこかで見られると、講師依頼がスムーズにできるのではないかと思う。大学では教員が一定数在籍しているため、内容によってはご案内をしている。県立図書館がしなければいけないものではないが、県内で情報が統括されると、講師依頼が合理化できるという印象はある。

（委員） 過去に働いていた職場でも講師を探してほしいという相談が多かった。県立図書館のシステムの中で、講座の内容が統括できるようなシステムがあれば、ひとつの強みになるように思う。

（委員） 市町立図書館等と連携し講座を展開されており、講座の満足度が高いことから、市町立図書館等に対して実施する講座の際に県立図書館が講師を推薦すると思う。既に市町立図書館等と連携できているのだから、別の場所で繋がる必要はないと感じた。

電子書籍について、ID・パスワードの一括付与の実績や現状、実際に電子書籍を児童生徒が利用しているのかを教えてください。

夏祭りについて、高校生による絵本の読み聞かせやわたあめ、キッチンカーなど、子供たちが体験できるものを今後も続けていただきたい。

（図書館） 電子書籍について、ID・パスワードの一括付与の実績は9月末で107校、51,980人となっているが、県立学校だけでも160校以上あり、全県で小中学校も含めると1,000校以上ある。数的には、まだまだ登録を増やしていきたい状況である。

電子書籍のアクセス数は、全世代がアクセスしているトータル数はわかるが、小中学生がどのくらいアクセスしているかの内訳は不明である。どのくらい利用されているかは、今後直接学校の担当に確認するしかない。

- (委員) 小中学校では電子書籍の活用方法がわからないのではないかと思います。その辺りを伝えないともったいないように感じる。県立図書館のことを知らない、遠いと思っている子どもたちも多いと思うので、この機会に県立図書館の電子書籍が自分の端末から見られることを上手に広報してあげてほしい。
- (委員) 電子書籍のID・パスワードの一括付与は素晴らしいシステムだと思う。図書館に行かなくても家で手軽に登録できるため有意義である。電子書籍の運用を開始してから、電子書籍の購入リクエストや、課題はあるか。
- (図書館) 以前から利用者より購入リクエストをいただいている。紙の書籍よりも電子書籍があれば良いというリクエストは徐々に増えており、これからも増えていくという感触は持っている。
- (委員) 市町立図書館も電子書籍を導入している。市町立図書館と県立図書館で役割分担や連携はしているのか。
- (図書館) 電子書籍も紙の書籍と同様に、市町立図書館では小説類や実用書等を多く扱うのに対し、県立図書館では専門書・学術書を中心に揃え、棲み分けをしている。
また、文部科学省から、学校と地域の図書館との連携により電子書籍を活用する旨通知が出されており、小中学校には市町立図書館が、高等学校には県立図書館が学校支援として電子書籍を提供するのが本来であるが、県内の約半分の市町でまだ電子書籍の導入ができていないため、導入されていない市町の小中学校でも利用できるように、県立図書館でも小中学生向けの電子書籍を購入している。
- (委員) 選書会について、どのような方が参加されているのか教えてほしい。
- (図書館) 館長、次長、利用サービス課長、ふるさと・資料課長、選書委員（選書担当の職員）が4名入って選書会を行っている。
- (委員) 例えばある一部の地域だけの歴史を書いた本など、ニーズは少ないかもしれないが、どうしても購入してほしいというリクエストがあったら購入していただけるのか。
- (図書館) 県立図書館の利用者であることが条件であるが、個人の方からも購入リクエストを受け付けている。リクエストを送っていただいたら選書会で購入を判断している。
- (委員) 神戸市立図書館の場合だが、神戸市の中の物語や絵本など、郷土のものは蔵書として増やしていかないといけないと考えている。そういった意味では、地域の郷土についての資料は市町立図書館もしっかり保存するようになっている。購入リクエストをする際は、市町立図書館にもリクエストしてみてもいいと思う。
- (図書館) リクエストがあれば検討しており、郷土の本は県立図書館でも積極的に収集しようと取り組んでいる。リクエストがあればお送りください。
- (委員) ビブリオバトルについて、今までは県立図書館で実施していたが、甲南大学と連携することは以前から計画していたのか。
- (図書館) 今年度実施するビブリオバトルは全国大会に繋がる大会で、以前から甲南大学で実施されていた。県立図書館は、独自に読書活動の普及の一環として、県立図書館で完結するビブリオバトルを一昨年まで実施していた。甲南大学での実施が難しくなり、活字文化推進会議から県教委へ相談があり、今回このような形式になっている。
- (委員) 所蔵について、兵庫教育大学は既に所蔵の上限を超えており、除籍も進めなければならない状況である。県立図書館はどのくらいの期間で蔵書を拡充する計画で、こういったタイミングで除籍を計画しているのか。貴重な本もあるので、県立図書館との連携ができるのかを伺いたい。
- (図書館) 県立図書館も書庫に限りがあり、蔵書をこのまま増やしていくと数年では書庫がいっぱいになることが予想される。令和3年度に、古いものや複本で持っていたものを中心に1万冊ほど除籍した。
- (委員) 除籍した本は廃棄になるのか。
- (図書館) 新しく設立された特別支援学校から依頼があり、何冊かはお譲りしたものもあったが、基本的には廃棄した。
- (委員) どこも似たような状況ですね。
電子化された資料の利活用の促進について、地域の資料を電子化して公開されており利便性が高い。例えば古い地図については国土地理院や今昔マップ等のサイトにリンクするようになるとさらに利便性が上がると思う。現在の公開状況だと、知っている人しか利用しないように思う。是非検討いただきたい。

- (委員) 学校サポート講座について、主な対象が高校となっている。どのように広報しているのか。また、受講対象は図書委員が多い。図書委員は本が好きな子が集まっていると思うので、将来のことも考えて、司書の仕事や図書館の仕事についての内容も入れたらいいように思う。
- (図書館) 学校サポート講座はホームページや各校配布のチラシで広報している。小中高全校に行き渡ってはいるが、認知度が低いため、広報を強化する必要があると認識している。県立図書館の職員が学校や市町の教育委員会に行くことがあれば、その度にご案内をさせていただいている。
- 令和4年度までは3クラス程度に対する講座が多かったが、最近は図書委員や図書を担当している教職員に対する講座が多い傾向である。
- (委員) 蔵書を令和3年度に1万冊処分していることについて、素人的にはとても驚く。例えば神戸市立中央図書館は雑誌を自由に引き取ってもらえる日がある。行列のできる人気行事なので、明石公園を使ってイベント化をすると、本が好きな人がかなり集まるのではないかと思う。処分するのではなく、売却して収益にするなど、色々な活用方法がある。処分は毎年少しずつ行っているのか。
- (図書館) 基本的に、壊れて使えなくなったものだけを毎年数冊～数十冊しか除籍していない。令和3年度はあまりにも書庫の空き容量が厳しいため、1万冊を除籍した。
- (委員) 除籍した1万冊にはどのような本が含まれているのか。
- (図書館) 今の時代では情報が古く使えなくなっているコンピューター関係のものや、毎年度改訂版が出て古くなっているもの、医学書の古いものなどである。
- (委員) 興味の持ち方は人により異なるため、現時点では正しくなくても、過去は正しかったということに価値があることもある。壊れて使えなくなったら難しいが、本としての体裁があるなら活用する方法があるように思う。
- (委員) 市町立図書館と繋がっているのであれば、このような情報も収集した方がいいように思う。各市町立図書館でも実施しているので、廃棄するよりも誰かの役に立つことに利用される方がいいのではないかと思う。
- (委員) 中期運営方針の中で阪神淡路大震災関連資料の充実を図るとあるが、来年30年を迎えるうえで県立図書館としてどのように資料収集や情報発信することを考えているのかを教えて欲しい。震災資料といえば人と防災未来センターや神戸大学の震災文庫、市町立図書館等にもあり、県立図書館と連携しているのか。それぞれの団体がどのような資料を所蔵しているかがわかりにくい現状で、ジャンル毎に一覧で見られると調べやすい。震災学習は教員の経験を中心に進められているが、図書館が震災学習の入り口になれるように、学習のヒントになるような取り組みになればいい。
- (図書館) 阪神・淡路大震災30年にあたり、情報発信の1つとして資料展示を予定している。また、ご家庭で眠っている震災関連資料の寄贈をホームページ等で呼びかける予定である。
- 他館との連携については、神戸大学が運営していた「阪神・淡路大震災関連資料横断検索」に当館も参加し、神戸大学震災文庫、人と防災未来センター、兵庫県立図書館の3館が所蔵する震災関連資料を横断的に検索できていたが、神戸大学のシステム更新に伴い、令和4年9月に終了した。
- 国立国会図書館が「ひなぎく」という東日本大震災をはじめとした各地の震災や災害の資料のアーカイブを運用しており、人と防災未来センターや神戸大学の震災文庫は「阪神・淡路大震災関連資料横断検索」終了後「ひなぎく」に参加している。県立図書館も「ひなぎく」への参加に向け国立国会図書館と調整しているところである。「ひなぎく」に参加することで震災資料の横断検索ができるようになり、それぞれの館のアーカイブへのリンクも貼ってあるため利便性が高まるようになる見込みである。
- (委員) 神戸市立中央図書館は震災資料室と本を置いているコーナーがあり、震災資料室をリニューアルするつもりでいる。小学生でも調べ学習をしたいと思ってもらえるものにしたい。
- (図書館) 兵庫県立図書館も12月20日から震災関連の展示を行うので、見ていただければと思う。
- (委員) 広報について、県立図書館は緑の中にあることが絶対的な魅力だと思っている。また、広報をアナログで攻めるかデジタルで攻めるか、県立図書館は都市型ではないので両方で攻めると良いと思う。例えばガーデンライブラリー等、県立図書館のキャッチコピーを考えてみてもいいと思う。
- 本の捨て方について、県立図書館にも事情があると思うが、バザーのように実施すると

いいかと思う。

(図 書 館) 本を廃棄する際はもったいない気持ちもあったが、リサイクルするために大量の本の装備を外したり、バーコードを外したりする手間が大変で断念した。当面、使用できる本を廃棄することは予定していないが、書庫の容量等の関係で処分せざるを得なくなることも考えられるので、今後検討していきたい。

(委 員) 兵庫教育大学図書館で図書館職員を中心としてブルークラスという取り組みをしたことがある。室内で勉強するのではなく、壁や屋根のないところで本を読んだり話をしたりするイベントである。県立図書館で本を貸し出して、明石公園に環境を利用したブースを作ると楽しんで利用してもらえと思う。このような取り組みをしているところもあるという紹介である。

(委 員) 先日の 50 周年記念事業は非常に素晴らしいものだった。図書館情報ネットワークシステムの改修で、以前よりも表示がわかりやすく、連携施設も増えて非常によかった。

50 周年記念事業のバックヤードツアーは多くの方が参加されていたが、一般申込の方の何割程度の方が参加されたのか。県立図書館の良さを広く知っていただくよい機会だと思った。

(図 書 館) 50 周年記念事業の参加者は約 130 人で、そのうち 80 人がバックヤードツアーに参加されたので 6 割程度の参加だったと推測される。一般申込は 165 人から申込みがあり、バックヤードツアーの希望を優先して抽選したわけではないため、一般申込の何割の方が当選されたか数値は出ないが、半分くらいの方はバックヤードツアーに当選された。

(委 員) 電子書籍の学校教育の活用について、普及を考えると、現在使っている指導案やどの資料をどのように使ったのかなどをリサーチしているのか。

(図 書 館) 調査はまだしていない。普及の状況に応じた調査を検討したい。

(委 員) 新聞を使った教育実践データベースがあり、兵庫県下の小中学校が新聞を使って学習した事例が掲載されており、電子書籍の活用方法もこれから蓄積していくと、先生方が電子書籍を授業に使いやすくなるかもしれない。県下の研修会で周知したり、記録を取っていただくよう依頼したりすると良いと思う。

また、セット貸出が停滞している。私立学校が多く利用しており、学校司書がセット貸出を推進しているのではないかと考えられる。公立学校に置かなければならないとされる司書教諭は部活動、教科担任、クラス担任などが忙しく、図書館にまで手が回らないのではないかと思う。学校司書はセット貸出が喉から手が出るほど欲しいと思っている。これらのことを考えて着実に推し進めれば数値は伸びると思う。

(図 書 館) ご意見参考にさせていただく。

(委 員) 電子書籍の ID・パスワードの一括付与について、小中高等学校の生徒全員に付与できることは素晴らしいことだと思う。しかし当事者の児童生徒からすると、電子書籍で何ができるかイメージしにくいと思うので、活用方法の動画等を作って、活用方法が初めにわかるようになると利用のハードルが下がるように思う。

(委 員) 電子書籍と開架との違いは、背表紙が見える一覧性の問題だと思う。電子書籍は背表紙がないため、見せ方を工夫するだけで利便性が違うと思う。

(図 書 館) 電子書籍については、小中学校への提供は市町立図書館が、高校への提供は県立図書館が対応してほしい旨、文部科学省から示されている。県内の市町立図書館では約半数が電子書籍を導入している状況なので、当面の間、県立図書館でも小中学生向けの書籍を購入することにしている。生徒一人ひとりへの ID・パスワードの付与がなければ学校活動でしか児童生徒は見ることはできないため、家でも学校でも電子書籍を利用できる環境を整えるため、生徒一人ひとりに ID・パスワードを付与することにしたものである。ベンダーの丸善も当館も少しでも検索を容易にできるように試行している状況である。使いやすい工夫を続けていきたい。

(委 員) 50 周年記念事業について、バックヤードツアーが非常に素晴らしかった。県立図書館で普段は見ることはできない舞台裏が見られると、得した気持ちになった。

また、前回の協議会での意見に対するフィードバックがあり、我々も意見を言った甲斐があった。

夏祭りは準備も当日も大変だと思うが、2 日間実施できないかと思った。昨年度も今年度も、参加人員も出し物も年々増えていて工夫されており、より一層認知度が高まっていくと思う。

他府県の図書館との意見交換について、新潟県や奈良県と意見交換をしているが、課題も見つかり新しい視点で考えられることもあるため、ぜひ促進していったほしい。

企業との連携について、新しい視点から図書館の運営ができているのが良い。

アウトリーチ事業について、セット貸出が昨年度と比べて今年度が減っている。図書館も広報を頑張っているから、教育委員会の組織としても義務教育課、高校教育課、社会教育課等と連携してセット貸出が増えるようなことができないかと思う。

県行政との主要事業の連携の取り組みについて、令和6年度（令和7年1月）は阪神淡路大震災30周年である。震災関連事業の紹介はもちろん非常に大事だが、その他に県民の普段の生活に関係するような県の施策の具体的な紹介がほしい。本庁に行かなくても県立図書館に来たら県の主要施策がわかるような展示があると便利だと感じる。

第1回図書館協議会は年度途中で事業を進めるためのPDCAサイクルというCにあたる。残りの半年に我々の意見を繋いでいただけたらと思う。

(図 書 館) バックヤードは50周年事業の目玉としてこだわりを持って取り組んだため、お言葉嬉しく思う。夏祭りについても、毎年実施しているが、高校生の科学絵本の読み聞かせを子どもたちが喜んで聞いている。読み聞かせをしてくれる高校生の数が、昨年度3人から今年度は7人に増え、高校生もやりがいを持ってくれているように思えるので、今後も続け、できることから少しずつ内容を広げていきたい。

他府県との意見交換については電子書籍を導入してから遠方の県立図書館からも問い合わせ等をいただくようになった。これを機に他の都道府県立図書館と意見交換する機会を増やしていきたい。兵庫県では司書採用が無くなっているため、都道府県立図書館との意見交換は必須と考えている。

セット貸出はどのように改善したらいいのか方向性が見えていないのが現状である。以前に利用されたことがある学校に電話やメールで再度案内したり、活用方法の提案をしたり、小さなことから工夫を重ね、紙の本を触っていただける機会を増やしていけたらと思う。

PDCAについても我々の自己評価と委員の皆さまの客観的評価を合わせ、改善につなげていきたい。

(委 員) セット貸出について、本日は欠席されているが、県立高校の校長である黒岩委員に、セット貸出を学校の読書会で活用できるかなどを相談してみることも一つの手だと思う。県立図書館からの協力依頼を黒岩委員を通じて校長会にアプローチしてもらってはどうか。